別紙様式

成果（○）と課題（●）　　校番（２６）　【昭和北小学校】

１　「本質的な問い」による単元構想について

○　本単元の本質的な問い「どうしてかたちづくりをべんきょうするのだろう。」に対して，児童は，操作活動，交流という学習活動を積み重ね，図形の構成について考えを深めることができた。また，既習の「さんかく」「しかく」という言葉を使い，図と言葉をつなげて説明する活動を取り入れたことで，図形についての基本的な見方・考え方を身に付けるとともに，自分の考えを相手にわかりやすく伝えることもできるようになってきた。

２　単元で育成を目指す資質・能力について

【知識・技能】

○　影絵の形に合わせて色板を置いてあるものと少しずれて置いてあるものとを比較することで，ぴったり置くと色板の場所は方眼につながっていることに気付かせることができた。

【思考・判断・表現】

○　児童アンケート「友達の意見を聞いて，進んで自分の考えを分かりやすく伝えている。」という項目において，肯定的評価をした児童の割合は，１学期の 79.3%から 10%以上上昇し，単元後は 89.7%であった。本中学校区で育成を目指す資質・能力の一つでもあるコミュニケーション力が，本単元において操作活動をする中で，図形の構成について交流することを積み重ねていくうちに培うことができたと考える。

○　学習の振り返りにおいて，以下のようなものがあった。

> ・「きほんのさんかくさん」をつかわなくても，せんをひけば，かずがわかった。
> ・マス目にあわせてせんをひいて，かんがえたい。

これらの振り返りから，児童は授業での交流で，方眼に合わせて線を引けば色板の枚数が分かることに気付くことができたと考えられる。毎年，本単元のつまずきとして，線を引くことの難しさが出てくるが，次も色板を使わずに線を引いてから考えたいという思いを多くの児童がもつことができた。

●　一人でじっくり考える時間を充分に確保することができなかった。考えを深めていくためにも，一人一人が課題に向き合う時間を確保していきたい。また，自分で考えを見出すことが難しい児童には，ヒントカードを渡す等の配慮もしていく必要がある。

【主体的に学習に取り組む態度】

○　影絵の形に興味・関心をもたせることで，同じ大きさの同じ形を作るという本時の課題を把握することができ，どの児童も意欲的に学ぼうとする姿勢が見られた。

３　「デジタル機器」の活用

○　ロイロノートの提出箱の機能を使い，児童がつくった形や，形をつくる過程を学級全体で共有した。このことにより，自分がつくった形を振り返るとともに，友達の考えと比較して考えることができた。また，次時へつなげたり，困っている児童のヒントにもなったりした。板書とデジタル機器を目的によって使い分けることで，より児童の思考が深まっていくと考える。